

春休み・学生限定ボランティア募集 | 気仙沼

東日本大震災から 15 年 被災地に移住した元学生ボランティアと交流

日本財団ボランティアセンター（以下日本財団ボラセン、東京都港区、会長 山脇 康）では、東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市を巡るボランティアプログラム「震災からつながるプロジェクト in 気仙沼 ～2026 春～」の参加者を募集しています。

本プログラムでは、震災当時に学生ボランティアの拠点となった、宮城県気仙沼市唐桑半島の民宿「唐桑御殿つなかん」を拠点に、災害ボランティア活動をきっかけに気仙沼へ移住した元学生ボランティアや地域の方々との交流、ならびに現地でのボランティア活動を行います。震災の記憶や復興の歩みを学ながら、これから起こりうる災害に対して自分自身がどのように関わっていくのかを考え、同じ課題意識を持つ仲間と出会い、つながりを築くボランティアプログラムです。

本イベントの参加者を募集しておりますので、周知のご協力をお願いいたします。なお、当日の取材については取材案内リリースを後日お送りしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



■ボランティアプログラム「震災からつながるプロジェクト in 気仙沼 ～2026 春～」 概要

- ・期 間：3 月 21 日(土)～25 日(水)
- ・場 所：宮城県気仙沼市
- ・内 容：
 - ・牡蠣養殖業の手伝い
 - ・小学生「放課後プログラム」の手伝い
 - ・震災経験者や移住者（元学生ボランティア）との交流
 - ・震災遺構や伝承館の視察・見学
- ・定 員：10 人（定員を超える申込みがあった場合は、志望動機をもとに選考）
- ・応募条件：
 - ・日本の大学、大学院、専門学校等に在籍する学生
 - ・事前オリエンテーションを含む全日程参加できる方
- ・募集締切：2 月 16 日(月)AM9:00 まで
- ・申込方法：日本財団ボラセン公式サイト「ぼ活！」にて受付中



<https://vokatsu.jp/volunteer/1767936604282x640629713802362900>



■ドキュメンタリー映画の舞台 民宿「唐桑御殿つなかん」

東日本大震災以降、日本財団ボラセンは、被災 3 県へのべ約 12,000 人の学生ボランティアを派遣してきました。

気仙沼市では、民宿「唐桑御殿つなかん」が学生ボランティアの拠点となり、全国から集まった学生ボランティアが寝食を共にしながら活動や地域との交流を重ねました。こうした出会いをきっかけに、気仙沼へ移住し、地域づくりに関わるようになった元学生ボランティアもいます。その物語は、2023 年 2 月に公開されたドキュメンタリー映画「ただいま、つなかん」でも紹介されています。

復旧・復興の進展やコロナ禍の影響により、学生と地域の交流は一時的に減少しましたが、映画の公開を契機として、「かつて学生ボランティアの拠点であった“つなかん”を、再び学生と地域が出会う場としたい」という想いのもと、2023 年より本プログラムは開始されました。

■「ただいま、つなかん」作品情報

語り 渡辺謙／監督 風間研一／音楽 岡本優子／ゼネラルプロデューサー 齋藤隆平／プロデューサー 柴崎木綿子／編集 井上秀明／製作著作：文化工房／2023 年／115 分／16:9／カラー／DCP／日本／ドキュメンタリー／©2023 bunkakobo／公式サイト：<https://tuna-kan.com/>



公益財団法人日本財団ボランティアセンター（日本財団ボラセン） 概要

日本財団ボラセンは、2010 年に NPO 法人日本学生ボランティアセンターとして設立し、学生のボランティア活動支援をスタートさせ、2022 年 3 月までに東日本大震災の被災地にのべ 1 万 2 千人以上の学生を派遣しました。2021 年に「公益財団法人日本財団ボランティアセンター」へと名称変更し、学生だけではなく幅広い世代を対象に、ボランティアに関する事業を実施しています。東京 2020 大会ではボランティアへの研修など育成事業に携わり、その後も世界陸上など、大規模イベントのボランティア養成やボランティア団体の支援も行い、全国 121 大学とボランティアに関する連携協定を締結しています。

運営するボランティアプラットフォームサイト「ぼ活！」の登録者数は現在約 5 万人にのびます。

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-11-2 日本財団第二ビル 4 階 代表者：会長 山脇 康